

シリーズ石見銀山②③ 昔からある通り

大森の町並みを歩くと、こんなもの（右の写真）を見ることができます。家の基礎に、金属の輪がついています。もう一枚は、延石をくりぬいたものです。素材は違いますが、いずれも同じように使われたもの。

「駒とめ」「駒つなぎ」などと呼ばれる、馬や牛を繋ぎとめたものです。町なかで荷物の上げ下ろしをするときや、牛馬から目を離すときに使われていたと考えられています。

銀山の中心部である仙ノ山や大森の町並みの発掘調査では、江戸時代の道が何層にも重なって見つかることがあります。町なかの道は、江戸時代の初め頃から石や採掘で出た石くずを混ぜて土をつき固め、人や牛馬が歩きやすいように、整備や補修を繰り返していました。道の両側には溝がつき、道路の水はけが良くなるようにしています。大森の町並みでは、現在使われているアスファルトの道の真下に、このような道が埋もれています。

現代では、移動や荷物の運搬には車が使われているものの、昔からある道、建物にさりげなく残る駒つなぎは、400年前の人々も同じように通りを利用していたことを教えてください。

石と土でつき固められた道の上を往来する人々。小春日和の青空の下、荷物を乗せたまま、通りにつながれてのんびり主人を待つ牛の姿。そんな風景を想像しながら、春を待つ石見銀山を歩いてみるのも楽しいですよ。



【問】石見銀山世界遺産センター ☎0854-89-0183 ホームページ <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

ちょんぼし語録⑮

夫：えらい底冷えするのぉ。スーッスーしてやれんが。

妻：ほんにな。今晚、雪がふーかもしれんね。

夫：朝間、車の雪おろさんといけんかもしれんのお。

妻：今日は、はあー風呂入って、ぬくもって寝よや。

夫：熱っ！ 湯が熱すぎーが！ うべんと入れんが。

妻：今晚はごうげにさむーなるてて、テレビでゆうとったけー、ちーとあつうしとっただに。

夫：そがだかな。ほんならゆうてかしてごせばいかっただに…あつうてたまげたがー。

妻：何ゆうとるだかな。子どもじゃないだけー、入る前に湯加減みーりゃーいいだに。

立春をすぎても、思いがけなく寒さがやってくることもありますね。三寒四温、そうこうしているうちに春の芽吹きが皆さんに届くことでしょう。

【対訳】

夫：すごく底冷えがするね。スーッスーしてしかたないよ。

妻：本当に。今夜は雪が降るかもしれないわね。

夫：明日の朝、車の雪おろしをしないとイケないかもね。

妻：今日はもう風呂に入って、暖まって寝ましようよ。

夫：熱っ！ お湯が熱すぎるよ！ 水を足さないと入れないじゃないか。

妻：今晚はすごく寒くなるってテレビで言っていたから、少し熱めしておいたのよ。

夫：そうなんだ。なら言ってくればよかったのに…熱くてびっくりしたじゃないか。

妻：何を言っているの。子どもじゃないんだから、入る前に湯加減みればいいじゃないの。